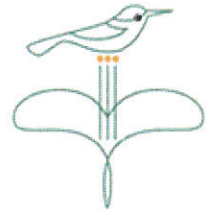
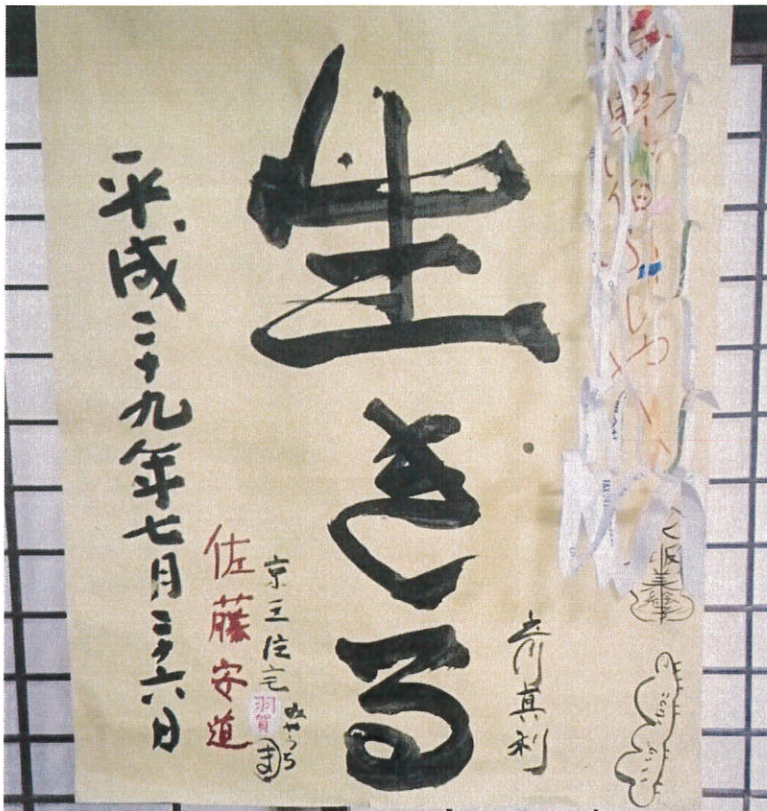


# 第30号 すずかけ ひろば



〒252-0186 相模原市緑区牧野 1987 TEL(042)689-3145 FAX(042)682-0988

E-mail:suzukakenoie@nifty.com <http://takutotsuchiya.com/suzukake2/> 発行責任者:宮内眞/担当:奥田弘美



すずかけの家代表であいさつして  
みます。

今年もみんなで、いろんなものをつくったり、あちこち出かけたりしましょう。

難しい理屈はいらない。自分がつくる。自分がでかける。自分でお金を使う……。

自分の人生ですものね。自分が納得する生き方をしなきゃ。

そして、常にみんなで、笑顔を。  
宮内眞



←利用者さん作

## こたつで丸あ〜るくつながら、日本の冬 〜みんなでトランプ〜

1月のある日、「誰かトランプしない?」と6歳の娘。

「じゃあ、やろうか」小さな女の子のお誘いには利用者さんも断れない。

こたつで温まっていたメンバーでトランプが始まりました。



ガードがら空きの娘のカードを見る利用者Aさん。

娘「見ないでよ」。Aさん「そんな風持ってたら見られるよ」と教育的指導。一番最初に上がったはずのBさんが、何故かまたカードを持っていて、また参加している…(笑)(^^)

白熱するゲームに最初よりみんなの距離が自然と近くなる…

こたつマジック! トランプマジック! 丸あ〜るくつながら日本の冬でした



# すずかけの冬

(写真、干し柿、干しシイタケ、薪ストーブ)

## お蚕さんで蘇る生活の感覚

昭和30年代くらいまで、牧野のこの地方も養蚕が行われていました。すずかけの古民家も養蚕向け仕様です。今回お蚕さんを飼うのに、地元の方たちの経験に頼りました。

過去お蚕さんに携わってた利用者さんの「温かいとこがいいぞオ。外に出しな」といえば、蚕の住んでるザルを持って外へ。「蚕は家の中で買うものよ」といわれれば再びザルをもってウロウロ。でも、懐かしい体験を利用者のみなさんは甦らせ、楽しい日々でした。



「回想法」などと言わなくても、地域の生活にひっついていっていると自然にいろんな試みになっていくのです。

(回想法とは、過去の懐かしい思い出を語り合ったり、誰かに話したりすることで脳が刺激され、精神状態を安定させる効果が期待できる方法です)

## 訪問、家で生活する

訪問には、月に延べ250回くらい、一日に2回以上行ってることもあります。

小規模多機能の生命線なのに何も報告が無いのはねえ。

要介護度5の方。  
バイタルチェック・  
体位交換・排せつ介助  
・清拭・胃ろうのケア  
などしてきます。

1回の訪問で約1時間。  
でもこの方、週3回はすずかけに通ってるんですよ。



## 戦後を生きてきた人はなぜ強い？！



腕相撲でスタッフだれもかなわなかった！

戦後を生き抜いてきた底力！

「ガッハッハ！どんなもんだい。」

→利用者さん作



自遊の広場、  
すずかけの家からお知らせ  
介護、福祉の事でご相談にのります。  
お気軽にご連絡ください。



デザイン、編集：(つなぎ手) 奥田弘美